



# 埋文だより

第10号

平成8年1月20日発行

## 古墳文化到来の鍵を握る



鳥越1号墳

板石を積み上げた石室

《所在地：阿久根市波留鳥越》

鳥越古墳群は平成元年に発見され、4回目の調査を平成7年9月に実施しました。

鳥越1号墳の竪穴式石室は、板石を横に積み上げて細長い長方形に囲み、上には天井石と呼ばれる大きな板石をかぶせた造りです。石室の内部は、丹で赤く彩色され、丸木舟を合わせた形をした割竹形木棺という棺を置いた痕跡もみられます。床からは首飾りにしたと思われるガラス製の小玉が出土しました。

この石室の特徴から、鳥越1号墳は古墳時代初期の畿内型古墳で、4世紀中頃という早い時期に畿内大和勢力の古墳文化が南九州におよんでいたことを示しています。このことは、九州西海岸地域の古墳時代の文化や社会を解明するための重要な資料となるものと考えられます。

(阿久根市教育委員会 河北篤志)

### 目次

頁

・鳥越1号墳	.....	1
・発掘調査紹介(9)	.....	2~3
・宇宿貝塚		
・六ツ坪遺跡		
・前山遺跡		
・鳥居ヶ段遺跡		
・学習展示室から	.....	4
—江戸時代—		
・発掘調査の手順(3)	.....	5
—協議—		
・第4期長期研修を終えて	....	5
・発掘調査中の遺跡	....	6

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、  
日曜日・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、  
入館料は無料です。お近くにお越しの節は是非お立ち寄りください。

発掘調査紹介(9)

## 夢ふくらむ古代村復元へ

宇宿貝塚《所在地：大島郡笠利町宇宿》

宇宿貝塚では、昭和30年に発掘調査が行われ、縄文時代後期から晩期頃（約3500～3000年前）の土器や石器が多量に出土し、石組住居跡も発見されました。この住居は、周りをサンゴの礫等で囲った、南島独自の特色を持ち、土器や石器とともに南島文化解明に欠くことのできない

ものとして、昭和61年に国の史跡に指定されました。

このようなことから、町では史跡を復元・展示する整備事業を進めるため、平成5年度から、発掘再調査を行っています。その結果、城時代（13世紀頃）の幅約1.2m、深さ約1.5mで断面がV字の形をした溝や小児や牛を埋葬した墓などが新たに発見されました。また、遺物も南島須恵器や中国などから輸入した陶磁器等多数出土し、当時の地域社会の生活様式や文化・交易の様子がわかってきました。

これらの成果をもとに町では、当時の生活の様子やその移り変わりがわかるように出土遺物を展示する館や住居を復元し当時の生活が体験できる広場などを建設する構想があります。

（笠利町教育委員会 中山清美）



復元された住居と  
遺物展示の館  
(完成予想図)

## 米作りを始めた頃の住まいを伝える

六ツ坪遺跡《所在地：日置郡日吉町吉利》

六ツ坪遺跡は、水田の整備事業に伴い、平成7年7月に発掘調査が行われました。この遺跡は、日吉町の中央部を流れる大川河口近くの水田地帯にのびる標高約6mの舌状台地にあります。

今回の調査では、縄文時代早期から平安時代にかけての土器や石器などの遺物、弥生時代の竪穴住居跡や平安時代の頃の遺跡一面に重なり合った300余りの柱の穴などの遺構が検出されました。住居跡は直径約5mのほぼ円形で、住居の掘り込みは深さが9cm～15cmありました。床には壁に沿って整然と並んだ6本の柱の穴と、中央には床面をさらに20cmほど掘り込んだ炉の跡も出てきました。出土した甕形土器などから、弥生時代前期（約2000年前）の住居であることもわかりました。

特に注目されたのは、これまで県内で例のなかった弥生時代前期の住居跡が発見されたことで、当時の生活を知る上で貴重な遺跡といえます。



柱穴がめぐる住居跡

## シラスの下からも石器が…

前山遺跡 《所在地：日置郡松元町石谷<sup>いしたに</sup>》

前山遺跡は、南九州西回り自動車道の建設に伴って、平成7年5月から発掘調査を行っています。遺跡は北向きの急斜面にあり、旧石器時代の遺物が特に注目されています。

約22000年前、始良カルデラの大爆発により南九州では厚いシラスが堆積していますが、前山遺跡ではシラスとみられる火山灰（現在分析中）が比較的浅く堆積し、この火山灰の上と下から石器が出土しています。

旧石器時代のうち、この火山灰層の上からは、ナイフ形石器文化（約20000年前）の時期のものとしてはナイフ形石器など狩猟に使う石器とスクレイパーなど調理に使う石器、細石器文化（約13000年前）の時期のものでは細石刃などの石器が出土しています。

火山灰層の下からは、初期のナイフ形石器と

判断されるものが出土しています。特に、シラスが厚く堆積している本県では、シラスよりも古い時代を発掘する例は珍しく、調査が進むにつれ、当時の生活や石器の作り方の変化が明らかになるものと思われます。



火山灰層の下から出土した石器

## 1000年前のお祀りの跡か？

鳥居ヶ段遺跡 《所在地：曾於郡輝北町平房<sup>ひらふら</sup>》

鳥居ヶ段遺跡は、国営輝北ダム建設に伴い、平成7年4月から9月にかけて発掘調査が行われました。この遺跡は、平房川を見下ろす台地先端部の斜面から平坦部にかけてあり、鳥居や神社があったという言い伝えが残る所です。

今回の調査で、平安時代（約1,000年前）の焼土・土坑・7条の古道やそのうちの1条の古道に沿って見つかった5つの杭穴、排水路として使用したと思われる溝などの遺構、さらに土師器や須恵器などの土器や石器が出土しました。

この遺跡で5000点を超す多量の土器が出土した割には、当時の人々の日常生活に直接結びつくような住居跡や炉跡などの遺構が少なく、遺跡はもっと広がりをもっているものと思われま

す。また、土器の表面に墨で文字や記号が書かれた墨書土器が多く出土したり、台地中央部へ続くと考えられる古道や斜面部に集中して10箇所ほどに火を燃やした跡が検出されました。これらのことを含めて考えると、この場所は当時の人々が集まり、お祀りをした場所である可能性も考えられます。



台地中央部へ続く古道

学習展示室から

## ～江戸時代～ (17世紀～19世紀後半)

この時代は、徳川家康が江戸に幕府を開いた1603年から明治政府ができる1868年までで、約260年間にわたる鎖国制度の中で武士や庶民の多彩な生活文化が永く栄えました。

この時代の前の安土・桃山時代に活躍した豊臣秀吉は茶道を好み、各大名にも奨めたため、各大名は焼物を好むようになり、競って自分の窯を持つようになりました。

豊臣秀吉の朝鮮出兵(1592・1598年)の目的には、日本の朝鮮半島への進出とともに、陶磁器の技術導入があったと言われています。そしてこの折、西日本の大名の中には陶器や磁器を焼く技術を持った工人を連れ帰って自分の領地に住ませ、今まで輸入に頼っていた焼物を自分の領地で生産するものもできました。陶磁器の生産技術の大きな変化がこの時に起こったと言えます。



中国・沖縄・九州で作られた  
陶磁器の大集合

特に、肥前(今の佐賀県付近)の焼物では陶器の唐津焼、磁器の伊万里焼が有名になりました。江戸時代になるとこれらは各地の特産物になり、献上品や贈答品として珍重され、さらには一般庶民の生活用品としても多量に出回るよ

うになりました。

鹿児島でも、白薩摩や黒薩摩と呼ばれる陶器と平佐焼等の磁器とがありますが、苗代川焼(東市来町美山)や龍門寺焼(加治木町)など県内各地のほとんどが陶器です。江戸時代後半になると肥前国から磁器の技術を導入し、川内市平佐などでも磁器を作るようになりましたが、薩摩藩には陶器の原料の粘土はあっても、磁器の原料の磁石がなかったため、磁器は永く続きませんでした。

鹿児島城(鶴丸城)跡に黎明館や県立図書館の建設をするにあたり、この時代の代表的な遺跡として昭和53年から2年間発掘調査が行われました。

薩摩藩が政治を行う役所の中心的建物だった本丸跡(現在鹿児島県歴史資料センター黎明館)では、複雑に配置された大規模な建物跡が検出されました。遺物は、白薩摩・黒薩摩をはじめ、平佐焼や伊万里焼・瓦等が出土しました。

二ノ丸跡(現在県立図書館)では、長方形の大きな建物、井戸、蔵、神社などの跡、本丸との間では庭と組み合わせた濠跡、石をくりぬいて作った水道管、門の階段や石垣等の遺構などが発見されました。また遺物としては、日常生活用品である薩摩焼、平佐焼が大量に出土したほか、土師器、琉球焼、伊万里焼、京焼等も出土しました。

なお、この鹿児島城跡は記録で保存し、さらに遺構を残せる部分は建設工事側と調整し建物の位置などの設計変更等を行い、再度埋め戻して保存しました。当埋蔵文化財センターでは、鹿児島城を中心に江戸時代の出土遺物や調査時の写真を展示しています。

## 発掘調査の手順(3)

## ～協議～

開発事業を行う人と県・市町村の文化財保護にたずさわる人が、遺跡の保護と開発事業とを円滑に進めるために、話し合うことを「協議」と言います。「協議」はいろいろな段階で行われますが、今回は「確認調査」の結果に基づいて行う「協議」についてお話しします。

「協議」の場では、遺跡をできるだけ現状のまま保存するか、発掘調査を行い記録保存するかを話し合います。現状保存とは、開発事業の計画・設計変更が可能な場合に、計画・設計を変更して遺跡を保存する方法です。記録保存とは、開発事業の計画・設計変更が不可能な場合に、発掘調査を行って遺跡を記録によって保存する方法です。

例えば、横川町では、<sup>めいぼる</sup>姪原遺跡で畑の改良工事が、<sup>ほしつか</sup>星塚遺跡で道路工事が計画され、確認調査

の結果に基づいて「協議」が行われました。その結果、姪原遺跡では遺跡の上に土を盛って現状のまま保存し、星塚遺跡では遺跡の発掘調査を行い、記録保存をしたのちに工事を進めました。

このような「協議」により遺跡の保護と開発事業とが円滑に進められています。

次号からは「緊急発掘調査」についてお話しします。



開発事業との調整を行う協議

## ～第4期長期研修を終えて～

県内各市町村で行われる発掘調査を円滑に進めるため、当センターでは平成4年4月の開所以来、「長期研修講座」を実施し、昨年度までに19名の修了生を送り出してきました。現在修了生は、それぞれの市町村で発掘調査や文化財の保護担当者として活躍しています。

今年度も、受講生7名を迎えて始まった第4期研修講座は、6か月間(5月9日～11月7日)の研修を全員無事終了することができました。

講座では、発掘調査現場での実習で実際に遺物を自分の手で掘り出すことや、全国の大学から著名な先生方や当センター職員による熱意あふれた講義が行われました。今後、修了生はセンターと連携をとりながら、それぞれの市町村での発掘調査や文化財保護に務めていくこととなります。地元の方々の修了生への暖かいご声援をよろしくお願ひします。

## 第4期長期研修を終えて

宇検村教育委員会 元田信有

研修当初、後悔もありましたが大変有意義で、以外と早く過ぎた6か月間の研修でした。

研修期間中、講義や現場実習を通していろいろな事を学び、また多くの方々との素晴らしい出会い等、貴重な体験ができました。

真夏の照りつける太陽の下での発掘作業は、大変きつい仕事でしたが、土器片や石器等を掘り出したときは、とてもうれしく感激したものです。たて穴住居跡や精巧な土器・黒耀石の矢

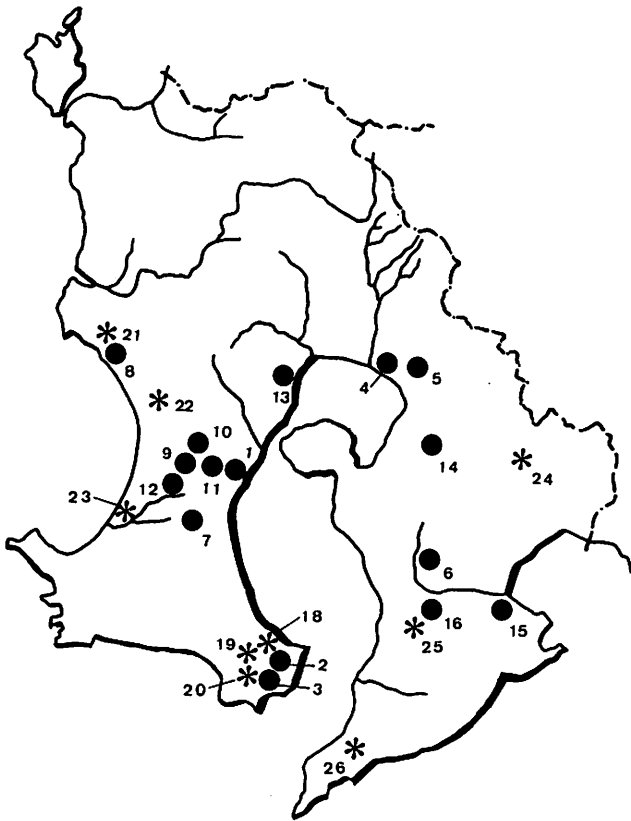
じり・石おの等々、昔の人々の生活の痕跡を目の当たりにしたとき、大昔の私たちの祖先が、心豊かで、自然とより調和しながら生活していた様子が感じとれ、大変感動しました。

この研修をとおして、埋蔵文化財の意義と併せて多くの方々と交友できたことは、大きな財産です。この研修で学んだ事を地域に活かすよう努力するとともに、ご指導くださいました先生方に心からお礼申し上げます。

～あなたも、遺跡をのぞいてみませんか？～

1月から調査予定の遺跡（\*印）

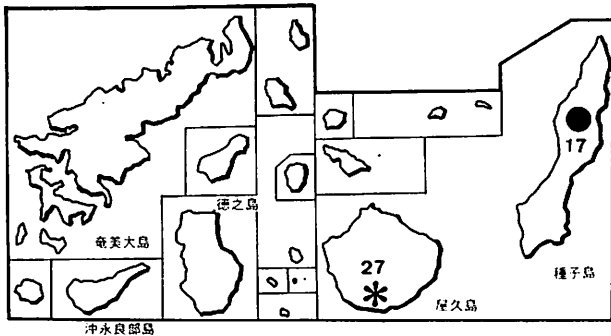
遺跡名	調査	所在地	時代
18 新番所後	市	指宿市十二町	古・歴
19 山王	市	指宿市十二町	古
20 敷領	市	指宿市十二町	古
21 外戸	町	市来町湊町	歴
22 一字治城	町	伊集院町一字治	歴
23 上川原	町	金峰町宮崎	古
24 堀之内	町	松山町秦野	縄
25 中尾IV	町	吾平町上名	古
26 前田	町	根占町前田	縄
27 田尾野	町	屋久町	古



詳しい遺跡情報については、  
 <調査>欄の「県」は当センターへ、  
 「市・町・村」は当該市町村へ  
 お問い合わせください。

10～12月調査終了の遺跡

遺跡名	調査	所在地	遺跡名	調査	所在地
28 東迫	市	鹿児島市	50 白糸原	県	金峰町
29 平田尻	市	加世田市	51 鹿村ヶ迫	町	入来町
30 横岡古墳	市	川内市	52 向山	町	〃
31 碓山城	市	〃	53 松尾城	町	宮之城町
32 古原	市	〃	54 下終迫	町	高尾野町
33 天辰原	市	〃	55 楠原A	町	加治木町
34 鳥越古墳	市	阿久根市	56 平松原	県	始良町
35 池ノ段A	市	出水市	57 井出ノ平	町	牧園町
36 正八幡他	市	〃	58 藤兵衛坂段	町	福山町
37 久保前	市	国分市	59 川路山	町	大隅町
38 柿久保	市	鹿屋市	60 鳥居ヶ段	町	輝北町
39 寺之門	市	西之表市	61 上ノ原	町	末吉町
40 日守	市	〃	62 牧ノ段	町	松山町
41 帖地	町	喜入町	63 飯盛山古墳	町	志布志町
42 堀川	町	穎娃町	64 倉園C	町	〃
43 馬場迫他	町	〃	65 北別府	町	有明町
44 西垂水	町	知覧町	66 中原向	町	高山町
45 老ノ原	町	東市来町	67 上小原古墳	町	串良町
46 西畑	町	松元町	68 新堀	町	東串良町
47 赤井田	町	〃	69 唐仁古墳	町	〃
48 池之城跡	町	〃	70 ウフタ	町	龍郷町
49 上水流	町	金峰町			



1月1日現在調査継続中の遺跡（●印）

遺跡名	調査	所在地	時代
1 山ノ中	県	鹿児島市西別府町	縄
2 向吉	市	指宿市十二町	縄～歴
3 南迫田	市	指宿市十二町	縄～歴
4 矢祢前	市	国分市下井	縄・古
5 上野原	県	国分市上之段	縄・弥・古
6 木屋堀	市	鹿屋市祓川	古
7 供養塚	町	川辺町下山田	縄・古
8 上城・詰城	町	市来町大里	縄・歴
9 前原	県	松元町福山	縄
10 前山	県	松元町石谷	縄・古
11 仁田尾	県	松元町石谷	縄・旧
12 外城	町	金峰町浦之名	旧～古歴
13 中原	県	始良町脇元	縄・歴
14 炭床I	町	大隅町大谷	縄・歴
15 波見西	町	高山町波見西	弥・歴
16 廣牧	町	吾平町麓	縄～歴
17 三角山	県	中種子町砂中	縄

埋文だより 第10号

発行日：平成8年1月20日

編集・発行：

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-56

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995-65-8787

FAX 0995-65-8117